

政 務 活 動 出 張 報 告 書

令和 6 年 5 月 21 日

会派名 公明党
代表者 中川 幸次 様

出張者 白水 敬一

次のとおり、政務活動（調査研究）のため出張したので、その概要を報告します。

1 出 張 先

5 月 1 4 日 東京都
5 月 1 5 日 神奈川県 海老名市
5 月 1 6 日 静岡県 裾野市

2 出張日時 令和 6 年 5 月 1 4 日～令和 6 年 5 月 1 6 日

3 政務活動事項

5 月 1 4 日	東京都	国土交通省要望
5 月 1 5 日	海老名市	海老名市地域づくり推進補助金について
5 月 1 6 日	裾野市	こどもの権利に関する宣言について しずおか子育て優待カードについて ファミリーサポートセンターについて

4 政務活動結果

別紙のとおり

5 費 用

¥ 7 5 , 3 3 0 円

令和6年度視察復命書

唐津市議 白水敬一

- ・期日 令和6年5月14日～16日 2泊3日
- ・視察地 1, 国土交通省 2, 神奈川県 海老名市
3, 静岡県 裾野市
- ・視察項目 1, 国土交通省 ・河川改修推進の要望活動
2, 海老名市 ・市民活動推進補助金制度について
3, 裾野市 ・ファミリーサポートセンターについて
・しずおか子育て優待カードについて
・子どもの権利宣言について

1, 5月14日 国土交通省

*河川改修要望活動について

今回の視察は、唐津市議会の超党派で、具体的には松浦川河川改修期成会と常任委員会の都市整備委員会の合同視察となった。

まずメインは、国土交通省の河川局への要望である。松浦川の支川徳須恵川と支川厳木川への平成21年7月21日に作成された「松浦川水系整備計画」に基づく事前防災のための予算拡充と松浦川水系における河川改修の精神である。昨年12月から古川衆議院議員での働きかけ等関係議員が綿密な計画を練って準備してきた成果として実現した。

5月14日13時30分～15時まで。堂故副大臣はじめこやり政務官等9名の水管理・国土保全局の局長、課長の方々に要望書を直接手渡しして要望活動を行った。斎藤大臣室にも議長・副議長と伺い、不在ながらも要望書を提出した。今後も唐津における国の事業に対しての要望活動を継続していくことは必要だと感じた。

2, 5月15日 神奈川県 海老名市

・海老名市 市民活動推進補助金制度について

歓迎挨拶を森下議長、視察受け入れお礼を笹山議長がそれぞれ行った。海老名市は面積 26kmで唐津の20分の1。人口は14万人、人口密度が非常に高い。第1次産業はわずか1%。小田急線・相模鉄線・JR 相模線に9つの駅を有する交通結節点で都心への通勤の人も多い。

市民活動推進条例が平成22年4月に施行し、同時に市民活動推進補助金制度を制定した。年5回、8名の推進委員会で決定。補助金は1月に相談・

申し込みして3月にプレゼン・審査して4月に交付決定。唐津市は6月と遅い。年度の活動が4月から始められる事も良い。

対象は3名以上の団体で、市民の自主的な参加によって公益性のある事。

- ・入門編 1回 上限10万円
- ・充実編 2回 上限20万円
- ・自立編 3回 上限30万円

つまり最長6年間の補助で、会費等で補助金なしで自立できるように推進していくものです。これまでに延べ99団体、年間7件、補助金額の累計は1600万円ほど。この年間補助が7件は少し少ないと感じた。

その他地域づくり事業交付金、自治会集会所設置事業補助金等である。

唐津市にもがんばる地域応援補助金等様々な補助金があるが、海老名市の事業補助金を参考にして唐津市の補助金を検証して充実させていきたい。

3, 5月16日 静岡県 裾野市

＊ ファミリーサポートセンター

面積 月21日 つくばみらい市

面積 79km² 人口 52000人

トヨタの未来都市「ウーブンシティ」10年前から建設が着々と進んでいる。それに関して様々な業態の企業が進出している。企業集中の都市である。だからこそ、社員家族が定住できるような「子育て支援」の様々な事業を推進している。

1, ファミリーサポートセンター

- ・おねがい会員
- ・まかせて会員（唐津市はサポート会員）

委託から直営事業へと転換して、令和元年おねがい会員が170人から2年度は76人に減少。課題もまかせて会員の不足等様々あるが継続している。

2, しずおか子育て優待カード

対象は妊産婦から18歳未満の子ども。協賛店舗は県内で5500店舗 裾野市は104店舗。佐賀県も同様の事業を実施している。

3, 子どもの権利宣言

2021年（令和3年）条例ではなく権利宣言としたところに意義がある。平成元年（1989年）に国連総会で「児童の権利に関する条例」が採決、平成6年（1994年）日本が批准、2000年全国で川崎市が初の条例を制定。そこから市の機構改革をして体制を整えて様々な事業を推進して

きた。裾野市の子育て支援の事業について、様々検討して、また政府の子ども未来戦略の加速化プランを早期に取り込んで、唐津市の事業をさらに充実させていきたい。

第 10 号様式(第 7 項関係)

政 務 活 動 出 張 報 告 書

令和 6 年 8 月 7 日

会派名 公明党
代表者 中川 幸次 様

出張者 中川 幸次
白水 敬一
宮本 悦子

次のとおり、政務活動（ 調査研究 ）のため出張したので、その概要を報告します。

1 出 張 先

7 月 2 9 日（月） 北海道函館市
7 月 3 0 日（火） 北海道室蘭市
7 月 3 1 日（水） 北海道北斗市

2 出張日時 令和 6 年 7 月 2 9 日～令和 6 年 7 月 3 1 日

3 政務活動事項

7 月 2 9 日 北海道函館市
「地域交流まちづくりセンターについて」
7 月 3 0 日 北海道室蘭市
「地方再生コンパクトシティ関連事業について」
7 月 3 1 日 北海道北斗市
「中学校の制服統一化について」

4 政務活動結果 別紙のとおり

5 費 用 4 1 6, 3 7 0 円

令和6年度公明党会派視察復命書

唐津市議 白水敬一

- ・ 期日 令和6年7月29日～31日 2泊3日
- ・ 視察地 1, 北海道 函館市 2, 北海道 室蘭市
3, 北海道 北斗市
- ・ 視察項目 1, 函館市 「地域交流まちづくりセンター」
2, 室蘭市 「地方再生コンパクトセンターシテイ関連事業」
3, 北斗市 「中学校の制服統一化」

1, 函館市 「地域交流まちづくりセンターについて」

函館市は北海道で3番目の都市で、人口24万2000人、面積677㎢ 15, 6年前に会派で視察したことがある。その時偶然にある百貨店で唐津市の「オーゼ本舗」の大場社長とお会いして様々話をしたことを思い出した。

まちづくりセンターもその時に視察した。大正12年に丸井の百貨店として3階建ての建築。当時のままのエレベーターが動いている。(現在5階) この視察は直接、現地に行き、そこに議会事務局、企画管理課の担当者が現地入り、そして指定管理者であるNPO サポートはこだての仙谷社長も同席して、様々説明を頂いた。この運営は6名体制で講座開催やボランティア登録、そして様々なイベント等も開催している。また移住・定住者誘致推進事業を行い、移住者交流会やフオーラムを開催。東京でのふるさと回帰支援センターでのブース設置をして周知・アピールしている。

とにかくこのセンターでのイベント行事が数多く開催され市民の憩いの場となっている。入館者数も10万人を超えていることも、このNPOの成果であるといえる。

唐津市においても、指定管理者の資質や活動が大きく事業の成果を左右すると思う。

2, 室蘭市 「地方再生コンパクトシテイ関連事業について」

北海道道南、函館・北斗から先は視察はなかった。初めての室蘭だ。人口 7万7000人 面積 81㎢ 狭い。合併もしていない。一昔は「鉄の町」としてにぎわっていた。この状況が国土交通省のモデル都市に(全国32都市) 北海道は室蘭市のみ。ちなみに佐賀県は基山町のみ。室蘭市は唐津市と同じように、「立地適正化計画」「都市計画マスタープラン」「地域公共交通網形成計画」等様々な計画が実施されている。

室蘭市は以前の中心街が室蘭駅から東室蘭駅周辺になっており、商業地や企業関係群が変化しており、住民の居住割合も東室蘭駅エリアが57%、室蘭駅エリアは24%となっている。公共施設が多い室蘭駅周辺を3つの広域交流、商店街の活性化、回遊性と総合プロジェクをしてきた。

その結果

- ・歩行者が15%アップ 7392人から8511人へ
- ・公共施設利用者が30%アップ 7万5941人から10万人へ
- ・公共施設の集約 図書館と環境科学館の合築。プラネタリウムも設置。確かに利用者多い。
- ・スポーツ施設を運動公園に集約して総量を抑制。

テニスコート17面 サッカーコート2面 総合体育館もその運動公園に建設。

さらに中央市街地の空き地を活用してのトークイベントや、様々な事業・イベントを開催していることも特徴である。(キッチンカー、小物製作ワークショップ、コスプレイベント) 9か月間で80を超えるイベントが開催された。

やはり行政にお願いばかりではなく、商店街も地域も民間が懸命にまちづくりへの情熱と行動が不可欠だと感じた。

3、北斗市 「中学校の制服統一化について」

北斗市は人口 4万3253人 面積 397km² 平成18年に2つの町が合併して誕生。合併後第3代議長だった池田氏が市長となり、令和5年3月に「性の多様性を尊重するまち宣言」を行った。また唐津市と同じく「ゼロカーボンシティ宣言」もしている。

制服の統一化はある大規模校3校で、個別に制服を見直す検討がなされていることから、令和4年6月から協議。各中学校にアンケート調査。9月にLGBT対策として「ブレザー化」に。小規模校には経済的負担が大きくなり、「制服の統一化」を決定。12月に第1回検討委員会(10名)3社による参加業者が選定される。令和5年2月に(株)明石スクールユニフォームに決定。(函館市)しかし、これまでの4つの販売業者はそのまま販売できる。イオン等の大手は販売業者にならない。私はそこが心配していたが安心した。5月にズボン・スカートのボトムデザイン、ブレザーデザインが決定。

市内で新1年生が360名、1人当たり3万4100円の補助。合計で1227万円(一般財源)

貸与か譲渡か聞くとなかなか答えが返ってこなかったが、3年間で卒業しても、それを返却して手直しして、新1年生に支給できる。リ・ユース

することは SDGS に当てはまる。これは池田市長の公約にも当てはまる。

唐津において考えれば、経費の面から困難なところもある。市全体での LGBT 対応、SDGS の考え方、保護者の負担等考えると、時機を見て決断すべきものがあると思った。

復 命 書

令和 6 年8月6日

報告者 中川幸次

- 1 視察年月日:令和6年7月29日から31日
- 2 視察先:北海道函館市、室蘭市、北斗市
- 3 視察項目:函館市「地域交流まちづくりセンターについて」
室蘭市「地方創生コンパクトシティの取り組みについて」
北斗市「中学校の制服統一化について」

4 視察概要及び所感

(1) 函館市「地域交流まちづくりセンターについて」

1923年に建築された百貨店を、西部地区のランドマークとして何度も改修しながら、市民の意見を取り入れ、活用されていた。

公募による5年間の指定管理で、NPOに年間 5～6千万円で委託されていた。民間の運営で利用者の立場に立った対応が可能で市民に好評であった。

唐津市でも、本当に市民のためになる指定管理の在り方が問われており、参考になった。

(2) 室蘭市「地方創生コンパクトシティの取り組みについて」

室蘭市は、人口75,538人、ピーク時は昭和 45 年の 162,059 人。日本の産業変遷の波を受け、鉄鋼、造船、石油精製などの撤退により、急激な人口減少を経ていた。面積は81.01km²と唐津市の 6 分の1でありほとんど変わっていない。

居住地も東側に移る中、かつての中心地JR室蘭駅区域との 2 拠点の都市機能誘導区域を設定し、立地適正化計画を策定。その後、都市計画マスタープラン、地域公共交通網形成計画を策定し、コンパクト・プラス・ネットワークによる持続可能な街を目指してあった。

地方再生コンパクトシティのモデル都市の指定を受け、国費の重点配分のメリットがあるとのこと。また、トークイベントや市民参加の

取り組みが大変に参考になった。

(3) 北斗市「中学校の制服統一化につて」

北斗市は、で人口減少と児童生徒数の減少に対する少子化対策を模索する中、SDGsの理念のもと、令和 5 年「パートナーシップ宣言制度」や「ゼロカーボンシティ宣言」を行った。

中学校制服に関する「LGBT 対応」の状況を聞き取りし、アンケート調査を実施。LGBT 対応策として、プレーザー化（制服の見直し）が必要であると認識。また、小規模校単独での見直しは、経済的側面で困難（7万円）、大規模校（5万円）。制服の共通化が最善との結論に。

統一制服製造業者選考に当たっては、3 社によるプレーゼーションを実施し、営業所が函館市にあり、SDGsの取り組みを行っている1業者を選定。制服のリユースを前提とした仕様となっていた。販売店は、市内の4業者で、現在と変わらないとのこと。

令和6年4月からスタートとし、中学1年生新入生360人、1人34,100 円、合計1,222万円を補助。3年間は実施し、状況を確認したいとのことであった。

制服の統一化が、LGBT 対応やリユースなどの SDGsの取り組みであったということに感心させられました。

以上

公明党会派視察復命書

令和 6 年 8 月 5 日(月)

報告者 宮本 悦子

◎ 視察日 令和 6 年 7 月 29 日(月)～ 31 日(水) 2 泊 3 日

◎ 視察地及び視察項目

①北海道 函館市

・地域交流まちづくりセンターについて

②北海道 室蘭市

・地方再生コンパクトシティ関連事業について

③北海道 北斗市

・中学校の制服統一化について

①函館市地域交流まちづくりセンターにて現地視察

函館市地域交流まちづくりセンターの建物は、大正 12 年、丸井今井函館支店百貨店として建設されたが、昭和 9 年の大火により被災し、焼失部分の改修・補強工事をされている。

その後、昭和 44 年に市が丸井今井から建物と土地を購入されている。

また、平成元年には、市の景観形成指定建築物等に指定をされている歴史ある建物でした。

この建物にもうけられているエレベーターは、扉の開閉、および運行を同乗するオペレータが手動で行うもので、東北以北最古の貴重な歴史的価値のあるものでした。

そこを地域の NPO 法人をはじめ市民団体の方々の交流広場として活用されていました。

管理運営は、5 年間の指定管理者で運営されており、今のセンター長は元ここの利用者だったとの事です。

市民目線で、市民活動されている方に寄り添って市や市民との架け橋をされていました。

②北海道 室蘭市

・地方再生コンパクトシティ関連事業について

市内の広さは唐津市と比べられないほどコンパクトな地域ですが、それでも西と東では、それぞれに市民の思いがあり、課題となっていた。

その中での取り組みは、様々市民の声を聞きながら 2 拠点都市を目指しての取り組みでした。

コンパクト・プラス・ネットワークによる持続可能なまちを目指す具体的な取り組みとして、拠点への都市機能誘導と居住誘導（都市計画の変更や新生活応援助成など）、拠点間を結ぶ公共交通の維持（効率的なバス路線の再構築や室蘭 MaaS プロジェクトなど）を実施。

居住地のコンパクト化を推進に当たっては、市街化区域 3,596ha のうち居住誘導区域は 1,126ha（約 3 割程度）に設定。

公共施設の集約としては、図書館と環境科学館を合築して、公共施設面積の総量を抑制。スポーツ施設も 5 ヶ所に点在していたテニスコート、サッカーコート総合体育館を 1 ヶ所に集約し、総量を抑制されていた。

商店街の活性化に向けた取り組みには、まちづくりの「担い手」の発掘、遊休不動産活用、創業支援の取組みとして、トークイベントを開催し、自由に語り合える雰囲気づくりで市民の力を活かしてにぎわいづくりのイベントなど実証実験を繰り返し行い、市民有志が主体的な活動を開始するようになっていた。

説明の後、えみらん（図書館と環境科学館を合併）施設を現地視察させて頂きました。

とても素晴らしい図書館 1 階と環境科学館 2 階でした

夏休みということもあり子どもたちが説明をら受けながら楽しそうに遊びながら科学を学んでいる姿に感動しました。

③北海道 北斗市

中学校の制服統一化について

北斗市では、誰一人取り残さない社会の実現をめざす SDGs の理念に

基づくまちづくりを推進され、令和 5 年「パートナーシップ宣誓制度」をスタートされています。

制服の統一化も性的マイノリティと SDGs を取り入れた内容でした。

唐津市では、既に制服が変更されている学校も多く、今更統一化については、タイミング的に厳しいと思われますが、リサイクルやリユースを考えていくことはとても大事な事だと思いました。

制服は、各学校が決定するものですが、マイノリティの観点から変更を考えている学校もあったが、まだ決まっていなかったのが丁度いいタイミングだったそうです。

また、少人数の学校では、変更すると保護者負担の金額が高くなることから懸念されている学校もあり、統一化することで、推進することができたようです。

北斗市では、制服を統一化し、ブレザー、スカート or スラックスリンボ or ネクタイには助成金を出して無償化されていました。

3 年を目処にリサイクル、リユースを考えて推進していくなど検討をされています。

子どもたちに物を大切に使うことなど、この 3 年間で、また小学生に教えていくことも大事な事だと思いました。

これは、市長の SDGs を考え取り入れたまちづくりがベースにあるとのことでした。

制服の統一化や無償化と言うことだけでなく、SDGsを取り入れられた考えが貫かれていることが素晴らしいと感じました。

3 日間の会派視察を終え、勉強させて頂いたことを、唐津市にとってプラスとなる様、参考にしたいと思います。